

令和8年度中小企業DX推進人材育成支援事業業務委託
企画提案に係る質問への回答票

No.	関連項目	質問内容等	回答
1	前年度実績、講座実施条件及び企画提案審査について	令和7年度の本事業における各講座の実施実績についてお伺いします。 社内デジタル人材育成講座、ITコンサルティング技術講座及びAI開発PBL講座それぞれについて、実施回数、参加者数の実績、並びに受講者アンケート等を通じて把握されている主な課題がありましたら、ご教示ください。	新規の事業であるため、令和7年度実績はありません。
2	前年度実績、講座実施条件及び企画提案審査について	AI開発PBL講座における課題提供企業についてお伺いします。 令和7年度において、課題提供企業として参加された企業の主な業種及び取り組まれた課題の概要をご教示ください。また、令和8年度において想定されている業種や課題の傾向がありましたら、併せてご教示ください。	新規の事業であるため、令和7年度実績はありません。
3	前年度実績、講座実施条件及び企画提案審査について	eラーニング環境の整備についてお伺いします。 仕様書案に記載のeラーニング等による学習環境整備について、県において既に利用可能なLMSその他のプラットフォームがあるのか、または受託者において独自に用意することを想定されているのか、ご教示ください。	受託者において独自に用意いただくことを想定しています。
4	前年度実績、講座実施条件及び企画提案審査について	企画提案審査におけるプレゼンテーションの実施条件についてお伺いします。 4月30日に予定されているプレゼンテーションについて、オンラインでの実施可否、持ち時間、質疑応答時間、参加可能人数及び使用可能機材をご教示ください。	参加申込書の提出【令和8年4月20日（月曜日）17時まで※必着】をいただいた後、調整を行い、改めて企画提案者へご連絡いたします。
5	前年度実績、講座実施条件及び企画提案審査について	企画提案審査の評価基準についてお伺いします。 評価基準の各項目に係る配点又は配点比率がありましたら、ご教示ください。	各項目に係る配点又は配点比率についてはお答えできません。
6	提供業務の費用負担・権利関係ならびに対応範囲について	「AIデジタル技術講座」のPBLにおいて、AIモデル開発・評価に要するクラウド利用料や開発ツール等の実費は、委託料に含めるべきでしょうか、それとも参加企業負担で考えるべきでしょうか。	委託料に含めていただくことを想定しています。
7	提供業務の費用負担・権利関係ならびに対応範囲について	また、PBLを通じて受講生や受託者が作成したプログラムや学習済みモデルの知的財産権の帰属（県、受託者、課題提供企業のいずれか）について、現時点での指針をご教示ください。	本件に関し、定められた指針等はありません。 県としては知的財産権には関与しないため、必要に応じて受託者と受講生との間で決めていただく形を想定しております。
8	提供業務の費用負担・権利関係ならびに対応範囲について	「社内デジタル人材育成講座」のターゲットである補助金採択企業に対し、県から本講座への参加勧奨や優先的な案内はどの程度行われる予定でしょうか。受託者の業務範囲としての「受講者の獲得」は、これら採択企業以外への広報・集客を主眼とするものと理解してよろしいでしょうか。	受託者には、「かごしま中小企業DX推進事業費補助金」に採択された企業を主として受講者の獲得を行っていただきます。（講座の参加について、補助金採択企業以外の参加を排除するものではありません。） 県からの案内については、必要に応じて、県と受託者間で調整をします。
9	全講座共有事項	①受講者・課題提供企業の獲得について、受託者の案内チラシの作成や配布はありますが、鹿児島県からの直接案内（県HP、既存施策経由等）はどの程度を想定されていますか？	県HPを通じた案内は可能です。 必要に応じて、県と受託者間で調整をします。

10	社内デジタル人材育成講座について	「ビジネスアーキテクトに求められる基礎的スキルを参考」とありますが、DSS-P のビジネスアーキテクトの全要素を網羅する必要がありますか？それとも中小企業向けに一部要素（業務可視化、課題整理等）を重点化した形で問題ありませんか？	全要素を網羅する必要はありません。中小企業向けに一部要素（業務可視化、課題整理等）を重点化した形で差し支えありません。
11	IT コンサルティング技術講座・フィールドワークについて	IT コンサルティング技術講座とフィールドワークの開催順番について、仕様書上は 3 講座完了後にフィールドワークのような想定かと思いますが、この通りでなくても問題ありませんでしょうか？	仕様書のとおり、講座完了後にフィールドワークの実施をお願いします。
12	IT コンサルティング技術講座・フィールドワークについて	フィールドワーク先について、県が選定とのことですが、選定基準はございますでしょうか？また、選定についても提案内容に含めてよろしいでしょうか？	選定基準はありません。選定について提案内容に含めていただいても差し支えありません。
13	IT コンサルティング技術講座・フィールドワークについて	「e ラーニング等を活用」とありますが、講座外での学習機会の提供ができれば、動画による e ラーニングの提供は必須ではない認識でよろしいでしょうか？また、動画による e ラーニングの提供が必須の場合は、〈学習環境の提供ができれば可〉もしくは〈学習状況や理解度の管理までを想定〉のどちらのご認識でしょうか？	eラーニングにこだわるものではございませんが、仕様書のとおり受講者が講座外でも学習できる環境を整備いただくようお願いいたします。学習状況や理解度の管理までを想定しております。
14	AI デジタル技術講座について	参加対象者について 15 人程度で IT 関連企業のシステムエンジニア、プログラマー等とあるが、応募定数を超える応募があった場合の選定については、受託者側の基準での選定でよいのでしょうか？それとも鹿児島県として選定スキルのような規定があるのかご教示ください。	定数を超える応募があった場合は、県と受託者間で協議の上、対応します。
15	AI デジタル技術講座について	参加対象者について、講座が長期に渡る且つ通常は日中に就業している事が予想されますが、参加者の状況により、講座自体を日中夜間、土・日・祝で開催でも問題ありませんでしょうか？	差し支えありません。
16	AI デジタル技術講座について	課題提供企業からのデータについて、実データ必須でしょうか？匿名化・加工済みデータ、またはサンプルデータの利用も可能でしょうか？	匿名化・加工済みデータ、またはサンプルデータの利用も可能です。
17	AI デジタル技術講座について	最終成果については「公開すること」とありますが、協力企業から提供された実績に（データ内容）についても公開する想定でしょうか？また、データ内容を匿名化しての公開は認められますか？	協力企業の意向を踏まえながら、県と受託者間で調整を行います。
18	AI デジタル技術講座について	PBL において受講者が開発環境やクラウドサービス等を使用する場合、それらの費用は受講者の所属企業が通常業務の一環として負担する想定で問題ありませんでしょうか？	講座受講に関する費用であるため、受託者側で負担をお願いします。
19	AI デジタル技術講座について	仕様書(3)の講座実施の流れ④「課題提供企業からのデータ提供による AI モデル開発」について、「AI モデル開発」として想定に近いものを下記よりご選択ください。 A. 機械学習・深層学習モデルの構築（学習データの収集・モデル訓練・精度評価） B. LLM を活用したアプリケーション・エージェントの開発（業務課題に合わせた組み合わせ・実装） C. 特定の技術手法は問わず、課題解決の手段として最適なものを提案者が定義してよい D. その他（具体的なイメージをご回答ください）	県としては、「C」を想定しており、皆様の提案のプレゼンを確認し、採択事業者を決定いたします。

20	仕様書案 4 業務内容 (1) 社内デジタル人材育成講座 の実施につきまして	参加者数として 150 名と記載されていますが、延べ人数となりますでしょうか。または、各回 150 名に参加いただく想定でしょうか。	各回150人程度を想定しています。
21	仕様書案 4 業務内容 (1) 社内デジタル人材育成講座 の実施につきまして	採択企業への受講案内として、かごしま中小企業 DX 推進事業費補助金の案内書・通知書等に同封いただくなど、県から送付手配へのご協力をいただくことは可能でしょうか。それとも受託者が独自に案内先リストを取得・配布する形となりますでしょうか。	可能です。 必要に応じて、県と受託者間で調整をします。
22	事業 1 の研修の実施回数と形式について	150 名に対しての社内デジタル人材育成講座について、150 名に 3 回の実施が必要か。50 名×3 回で実施し各人 1 回の講座受講となる形でも差し支えないか。	各回150人程度を 3 回程度、実施いただくことを想定しています。
23	事業 2 の講座内容の具体的な定義について	「ITコンサルティング技術」とは具体的にどのような能力と定義しているか。	定義はしていません。 仕様書に記載のとおり、「現場が抱える課題をデジタル技術を活用して解決するための手法や考え方、プレゼン方法等」と認識しています。
24	事業 3 の PBL 教材の必要数について	課題提供企業を 2~3 社を選定するにあたり、課題提供企業の課題をテーマにした PBL 型の教材を開発し提供する形でも良いか。その場合、教材も社数分 (2~3 種類) 作成する必要があるという認識で相違ないか。あるいは、共通の教材 1 つの作成でも問題ないか。	PBLを実施する講座であるため、課題提供企業の課題をテーマにしたPBL型の教材を開発し提供する形での対応はお控え願います。
25	オンライン会議ツールについて	使用するオンライン会議ツールは県の指定のものがあるか。 事業者の任意のオンライン会議ツール (GoogleMeet, Zoom など) でも問題ないか。	使用するオンライン会議のツールに県からの指定はありません。受託者の任意のオンラインツールで差し支えありません。
26	社内デジタル人材育成講座について	「参加者数 150 人程度」とありますが、これは3回の合計人数の想定でしょうか。もしくは1回あたりの参加者数でしょうか。	各回150人程度を 3 回程度、実施いただくことを想定しています。
27	社内デジタル人材育成講座について	かごしま中小企業DX推進事業費補助金に採択された企業の連絡先 (担当者やメールアドレス、電話番号など) を提供いただくことは可能でしょうか。	可能です。

28	参加申込書の作成・事業内容および運営に関する事項	<p>共同体として参加する場合、参加申込書の「名称」欄には共同体名を記載し、「代表者」欄には代表企業の代表者を記載することでよろしいでしょうか。</p> <p>また、以下の点についてもご教示ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各講座の受講者のIT・DXレベルについて、想定されている水準はありますか。 ● 昨年度または類似事業の実施がありましたらその実施内容と、そこから抽出された課題点についてご教示ください。 ● 集客目標が未達となった場合の取り扱いはどのようになりますか。 ● フィールドワーク先の企業について、業種・規模感など、想定されている条件はありますか。 ● AIモデルの開発とありますが、レベル感として想定しているものはありますか？ 	<p>ご認識のとおりで相違ありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 想定している水準はありません。 ● 新規の事業であるため、令和7年度実績はありません。 ● 可能な限り集客に努めていただき、未達となった場合は県へ相談願います。 ● 想定している条件はありません。 ● レベル感の想定はありません。
29	仕様書1ページ4(1)社内デジタル人材育成講座	<p>「実施回数」について、3回程度と記載ありますが、想定する合計時間数あるいは、1回あたりの想定時間数をお知らせください。例えば、集中的にカリキュラムを組むことで研修効果が高まると考えられる場合、1回の研修時間を7時間とし、実施回数が2回となることは差し支えないでしょうか。</p>	<p>時間に関しての想定はありません。例示いただいた形でも差し支えないです。</p>
30	仕様書1ページ4(1)社内デジタル人材育成講座	<p>「参加者数」について、150名程度となっておりますが、こちらは研修参加者の延べ人数という認識で相違ないでしょうか。</p>	<p>実人数になります。各回150人程度を3回程度、実施いただくことを想定しています。</p>
31	仕様書1ページ4(1)社内デジタル人材育成講座	<p>「対象者」について、講座の受講対象者は、かごしま中小企業DX推進事業費補助金の採択企業の従業員等とありますが、貴県の補助金採択企業向けの周知は、採択事業者から行うことになりませんか。事業者からご案内となる場合、補助金採択事業者に対して、確実にご案内する観点から、補助金採択先企業をご教示いただく必要がございますが、開示がなされるなどはありますか。</p>	<p>受託者から行っていただきます。必要に応じて情報提供をいたします。</p>
32	仕様書2ページ4(2)ITコンサルティング技術講座・フィールドワーク	<p>ITコンサルティング技術講座は募集した20名程度(固定メンバー)が複数回の研修を受講するという認識で相違ないでしょうか</p>	<p>ご認識のとおりで相違ありません。</p>
33	仕様書2ページ4(2)ITコンサルティング技術講座・フィールドワーク	<p>ITコンサルティング技術講座の「実施回数」について、3回程度とありますが、想定する合計時間数あるいは、1回あたりの想定時間数をお知らせください。仮に、集中的に研修時間を確保することで質の高い研修となる場合、講座が2回となることは差し支えないでしょうか。</p>	<p>時間に関しての想定はありません。差し支えありません。</p>
34	仕様書2ページ4(2)ITコンサルティング技術講座・フィールドワーク	<p>フィールドワークについて、「フィールドワーク：2～3箇所程度」と記載がありますが、貴県にて選定する企業のフィールドワーク訪問先として、県内のエリア、場所の想定がございましたら、ご教示ください。</p>	<p>現時点において想定はありません。</p>
35	仕様書2ページ4(2)ITコンサルティング技術講座・フィールドワーク	<p>フィールドワークについて、「提案発表会」の記載がありますが、フィールドワーク後の伴走支援に関する指定事項はありますか。</p>	<p>指定事項はありません。</p>

36	仕様書2ページ4(2) ITコンサルティング技術講座・フィールドワーク	「その他」について、受講募集案内等のチラシを作成し、関係機関への配布等を行う際、事業者自らの広報に加えて、貴県の広報媒体等を活用させていただくことは可能でしょうか。	可能です。 必要に応じて、県と受託者間で調整をします。
37	仕様書3ページ4(3) AIデジタル技術講座	講座の柱書き及び内容に「AI開発等の手法」と記載されております。この「等」の範囲について、確認させてください。 ・受講者（ITエンジニア・プログラマー）の技術レベルや課題提供企業のデータ状況によっては、AIモデルの開発・構築よりも、データ分析・可視化や既存AIサービスの業務実装といった手法の方が、学習効果および企業課題の解決効果が高まるケースも想定されません。 そういった場合、AIモデル開発・構築は要件ではなく、受講者が、PBLにより実課題に基づく実戦的な課題解決提案が習得できる講座とすることを、当局として重視されるという理解でよろしいでしょうか。	要件としてAIモデル開発・構築を目指していただくことを想定しています。
38	仕様書3ページ4(3) AIデジタル技術講座	AIデジタル技術講座の内容中、<講座実施の流れ>については「想定」と記載されておりますが、課題提供企業の実課題や状況に応じて内容を柔軟にカスタマイズする提案を行った場合、仕様書の「想定」の流れに忠実な提案と同様に評価いただけますでしょうか。 また、<講座実施の流れ（想定）>において、提案の評価上、盛り込むのが望ましい項目がございましたら、ご教示いただけますでしょうか。	仕様書をベースとし、柔軟にカスタマイズいただくことは差し支えありません。 評価については、HPに掲載している応募要領別紙の審査基準に基づいて評価します。 特段ございません。
39	仕様書3ページ4(3) AIデジタル技術講座	講座の内容中、<講座実施の流れ（想定）>④「課題提供企業からのデータ提供によるAIモデル開発」について、想定している技術レベルを確認させていただきたいのですが、以下のいずれに近いでしょうか。 A) クラウドAIサービスのAPIやノーコード・ローコードツールを活用。プログラミングは最小限で、既存モデルをGUI操作の範囲でカスタマイズして活用する B) PythonなどのプログラミングによりMLコーディングを行い、課題提供企業から提供されたデータを機械学習させることで、企業の課題解決に資する機械学習プログラムを開発する C) 独自アーキテクチャの設計・開発や、オープンソースモデルの大規模学習・構築。高性能GPU環境と専門的なMLエンジニアによる実装を前提とする	特定の技術手法は問わず、課題解決の手段として最適なものを提案者が定義していただきたいと考えており、皆様の提案のプレゼンを確認し、採択事業者を決定いたします。
40	仕様書3ページ4(3) AIデジタル技術講座	「参加者数」15名程度については、研修初回から終了まで固定したメンバーで行うという理解で差し支えないでしょうか。	差し支えありません。
41	仕様書3ページ4(3) AIデジタル技術講座	「必須要件」について、成果発表会の実施は、4(2) ITコンサルティング技術講座・フィールドワークの発表会と同日開催は許容されますでしょうか。	差し支えありません。
42	仕様書4ページ4(3) AIデジタル技術講座	「その他」の受講募集案内等のチラシを作成し、関係機関への配布等を行う際、事業者自らの広報に加えて、貴県の広報媒体等を活用させていただくことは可能でしょうか。	可能です。

43	仕様書4ページ 4 (3) A I デジタル技術講座	「その他」の講座実施後の受講者及び課題提供企業へのアンケートについて、メールあるいはweb方式による実施で差し支えないでしょうか。	差し支えありません。
44	仕様書4ページ 4 (4) その他	工 研修効果把握等のため、講座終了後、受講者の所属先へのアンケートについて、メールあるいはweb方式による実施で差し支えないでしょうか。	差し支えありません。
45	仕様書4ページ 4 事業内容	4 (1)～4 (3) について、受講者の講座参加の交通費、フィールドワーク参加のための交通費は、参加者負担という理解で相違ないでしょうか。	ご認識のとおりで相違ありません。
46	仕様書4ページ 5 実績報告	(1) 提出成果物「ア 実績報告書 (A4版・データ版) : 各1部、イ その他県が指示したもの: 一式」については、電子データでの提出という認識でよろしいでしょうか。	ご認識のとおりで相違ありません。
47	仕様書4ページ 6 追加提案	「本県の中小企業のDX推進に向けた人材育成に資すると判断できる追加提案があれば、積極的に提案すること。」について、提案書内で各研修項目に「追加提案」を行った場合、どのような評価が行われるのでしょうか。	HPに掲載している応募要領別紙の審査基準に基づいて評価します。
48	仕様書5ページ 10 個人情報保護	「業務を実施する中で入手した個人情報の取扱いについては、個人情報保護法等の法令順守に加え、別記1「個人情報取扱特記事項」を遵守すること。」について、別記1がHPに掲載されていないと認識しており、別記1の様式をいただくことは可能でしょうか。	可能です。
49	企画提案募集要領 3ページ 5 応募方法	(1) 提出書類 「オ 会社等概要書・登記簿の写し又は定款の写し」については、定款の写しの提出で差し支えないでしょうか。	差し支えありません。
50	企画提案募集要領 3ページ 5 応募方法	「(3) 提出形式: A4横・片面使用」と記載がありますが、企画提案書、プレゼンテーション資料等を指しているということでしょうか。 提出書類 ク(様式4)など、A4縦の様式があるかと存じますが、A4縦の形式でも差し支えないでしょうか。	ご認識のとおりで相違ありません。
51	企画提案募集要領3ページ 5 応募方法	(4) 提出部数及び提出期限 「エ 共同事業共同体協定書(様式3)」について、他社に一部の業務を再委託して実施することを想定する場合、提出が必要と考えられるか。	必要ありません。